

平成 26 年度 ハッピードワンII 第 3 回運営推進会議

平成 26 年 8 月 27 日

記録 武田

参加者	七飯町役場福祉課 課長	阿部様
	緑町 町内会長	首藤様
	町内副会長	松木様
	ケアプランセンター社協	
	介護支援専門員	氷見様
	ご家族様	本庄様
	スタッフ	中村・吉田・武田

中村：緑町の改修の現状と課題について少しお話させていただきます。まず現在 SS、DS、GH と改修していく訳ですが、何故 1 億 2000 万円を超える借金をしてまで改修していくのか。平成 15 年には 3 億かけてこの建物を建設し、まだ残金が 8000 万円残っているので合計 2 億円の借金になるわけです。

10 年前 45 歳の方々が今後の GH の対象者になっていくわけですから、おのずと生活スタイルも変わって来ます。そう考えた時に今後入ってくる利用者様のニーズに対応していくためには、生活しやすいスタイルに作っていかなければなりません。新しくするのではなく、そこに生活する人達の生活スタイルへと変化していくために、暮らしやすい環境に形をかえていく必要があると考え踏み切りました。

SS はユニットケアにし、台所を設置する事によって、お茶を入れる人はお茶を入れたり、すべて新しいスタイルに変えていきます。但し、スタッフがニーズについていけないのが現状です。

DS も 8 月末をもって中止し、癒しのような感じで中身を変えていこうと思っています。DS は運動機を入れ、特浴を付け、時間があれば特浴も使ってもかまわないし、裏側に増やして機械を 4 台入れて、リハビリ目的の DS 予防介護を行っていきます。自分自身でメニューを選択してもらい、作業療法士を入れる予定です。

そして 10 月 8 日、田中義行氏に来てもらい、理学療法のメニューを作成して頂き、評価をかけながらプログラムを作り、3~4 時間だけ来て、自分の運動を行って帰るもよし、動く DS を目指していきたいと思っています。規模としては 40 で、短い時間で 1 日 40 をこなす事が出来ると思っています。軽体操や麻痺のある方なら、その方にあったプログラムを作成し、専門性を持った DS へとリニューアルしていきます。オープンは 10 月 9 日の予定です。まず案内を出す前に地域のケアマネさんに来てもらいたいと思っています。GH はフロアを 10 月に変える予定でカウンター・テーブル・隠れ居間を作り、部屋の灯りを変え、斬新・大胆に変えて行こうと思っています。4 丁目スタイルに変えられる感じでイメージ的にはシックな旅館のような感じで、施設施設したイメージが払拭出来ると思っています。

今までの緑町とのイメージとはかけ離れ、お風呂もかなり広くとっています。何でこんな事をするのかといってもアパートに住んでいたら大家さんが改修してくれる訳ですから、それと考えは同じです。他にはそろそろ大沼とも考えてはいるが、まだ思案中のみの段階です。これからは利用者様のためだけではなく、馴染みやすい、自然に地域の人が入って来やすい環境作りを目指しDSの機械も地域の方への開放を考えていて、月に1回予防体操等を行っていくため、スタッフも専門職からおそわり、梗塞・高血圧等、プログラムを組んで専門性を持った動かし方をしていきたいと思っています。例えば半月板を痛めた人にはその人の機能を理解し、専門性の追求を行っていかなくてはいけないと思います。お風呂も作りますから、日曜日には介護予防に努めて行こうと思っているので歩いて来れる場所で予防体操をしてお風呂に入ったりして地域の中で一緒に取り組んでいきたい。

1年間4丁目で学んだことは、口だけ達者で足が痛い、腰が痛いと言っていた人でも、食卓へ行くには歩いて行くしかないで、雨や雪が降ろうと歩いて行っている。要介護4であろうと3であろうと、その場に直面すると出来るのです。

ケアマネが疾患をどのようにとらえているか、メニューを持って来てもらって継続して行きます。何か出来るはずですから、そのために詳細なプランを頂く。1つクリア出来たならば次の1つを。その人にあった生活リハビリが必要ならば、生活をしていくうえで最低限自分のもっている残存機能を生かすことが大切だが、元気すぎてもダメになってしまう。これは自信を持って言える事なのですが小規模でななえ新病院に2カ月入院し、車椅子からソファへの移乗、生活で3週間経ったらDr.が動いてもいいと言った、外に出る意識、毎日3食食べていると太る、歩き案配が悪い、今までは段差のないものを作り、それが却って何ミリかの段差にでもつまずいてしまう。いかに利用者リスクのないものを作ってきたのか、そうならないようにGHはそうしていかなければと思っている。

スタッフが足りないのが現状ですが、じゃあスタッフが足りていれば出来るのか、恥ずかしい話、本当にスタッフの質が落ちて、人手不足なのであまり怒るとスタッフが辞めると思い、3年間怒らないでやってきたが、そのおかげでスタッフの質が落ちている。前のハッピーならいろいろな提案が出て来て、この人ならハッピーさんで見てくれるだろう。スタッフのみなざるパワーを感じられない。ここでなければいけないという事がなくなった。入る所がいっぱいあるからばかりでなく、スタッフに任せろ！という意欲がない。寝ているようなものだ。頭から熱湯をかけて、火傷して苦しみ、痛みがわかるだろうと思うと毎日怒鳴っている自分に遭遇すると思います。

怒られていると捉えるか、教えてもらっていると捉えるか、自分の足元がポチャポチャ浮いていて、ぬるま湯に浸かっている。どこかでしっかりとしたムチを与え、もう1回目覚えてもらい、元のハッピーに戻します。見て下さい。ハッピーでなければ絶対ダメという事業所に半年でしていきます。

この間、七飯町ボランティア、オレンジTシャツ、啓発運動、函館市長にお願いしたら認知症を支える会の顧問、部長、課長、議長が視聴の命令で参加してくれました。

福祉部長はオレンジ T シャツを購入し、太刀川の埠頭まで市長は走ってくれました。函館市もこれから介護予防に取り組むので七飯町も施設がいっぱいあって、施設の人からパワーをもらってボランティアに参加してくれるようになればと思っています。

GH スタッフ 7 名、それでも人手が足りないので、ボランティアの方がいると助かります。食事、お風呂、受診、通院に行ってます。家族に行かしているのは違反になります。その他に皮膚科、眼科、受診に行くと 2~3 時間はスタッフがいなくなりパートを入れると経営圧迫になりかねないので、ボランティアの方に福祉ポイントを発行する等、このような主旨のポイント制を考えて欲しいと同時に福祉課なら福祉課らしく真正面から考えて欲しい。函館はアンケートを取ってやっている。常に同じ方向にいる訳ではないので、前の年の見積りを元に改善していくべきだと思います。ところで福祉ポイントはどのような対応で受けているのですか。

松木：社協が掲示するものに福祉ポイントが出ます。3~4 時間やっても 1 ポイントで、元気な高齢者が 1 時間 100 円。七飯町の場合は元気な高齢者が社協の福祉場の指定するものに参加してくれると 1 日 1 ポイント。社員が地域のために貢献していくとして同じ形ではなく常に見直していくことが大切で役場は地域に、地域は役場にどうということをお願いしたいのか。

中村：町長が選挙の時に地域ニーズ調査をやっていくべきで、いつもどっかり座っている。もっと地域で頑張っている職場作りをし、更生労働者もやっている。役場は何をやっているのか。

松木：これは私たちの課題で函館市は高齢者が元気に維持していける。

中村：函館は委員会を付くてやっているのに、聞き取りもやらないし役場は何をやっているのでしょうか

阿部：施設まではまだ行ってません。

松木：福祉ポイントも無制限で出す訳ではない。

中村：社協さんが好日園に行ったらポイントが出ます。それっておかしいですよ。

首藤：今後新しくなり提案していくべきですね。函館は雇用に繋げていくための目的もあり 2~3 時間でも働ける。100 円でも困るし無料だったらあつ幕なしでも困る。仕事として責任をもってやってもらうためにも、雇用に繋げていくきっかけを作る必要がある。

阿部：ただ、だから何をやっても良いという考えでは困ります。

中村：小さな町村は介護度をあげてしまえばいいということではない。

松木：私も最終的にお世話になると思うので社協に登録し、町内会にいろいろな事を振って行くとあまり混まないと思います。みんなで話し合っ個人差、得意分野を配慮しながら、こんなのがいいのではと意見を出しあっていくのが良いのでは。役場の主旨をしっかりと行動に出して行って欲しい。

将来的には地域の人がやらないともたなくなるので、地域の人が自然に入ってくれるような施設を作るちいってますが、介護度が付いていなくてもいいですか。

中村：介護認定がついているとダメで、お金はもらわない。入浴すると営業許可を取らなければならない。登録制を考えている。

阿部：大中山と同じスタイルにするということですよ。

中村：次回の運営推進会議でわかりやすく書いて渡します。子供はダメです。

氷見：基本的に一般開放ということですよ。

中村：今機械が安くなったので機械操作がわかると元気な地域のお年寄りを作っていく。

首藤：大中山のお風呂の利用者はどうなんですか

中村：妬み、拒みもあり週1回程度のスタンスでしか出来ていない。

阿部：4丁目の町内会さんはいいですよ。1回見学してみて地本の人、地域の人と関わっていれば、運営推進会議なんかもいいですよ。ゆうりんⅡではヨーカドーさんに出張販売に来てもらい、地域の人にも声を掛けて下さってますよ。

氷見：会議の希望があれば場所スペースも使っていていいですよ。小林さんが作ったサ高住(サービス付高齢者住宅)は玄関を入れてすぐ自由に使っていていいですよ。

中村：大中山は町内会館がないので使ってくださいとは言えないが予防に取り組みお風呂に入るとい流れがなければ使われない。どちらにせよボランティアの啓発をしてもらい

たい。

松木：ボランティアの啓発といってもいきなり難しいので町内でのボランティア、そこからのスタートだと思います。人口が落ちているので老人クラブ等の貢献度も落ちている。最初はいいが、長くやっていると飽きてくるので飽きさせずに継続・維持し、テンションをあげるにはどうしたら良いかを考えていかなければなりませんよね。

中村：確かにスタッフは足りないですが、ボランティアさんが入ってくることによって自分達が見られている、地域の人が入ってきて見られることから仕事に対する緊張感にもつながりスタッフのレベルアップにもなっていくと思いますのでボランティアの啓発に向けて私たちは何ができるのか町内会や役場さんと連携し、考えていくことが今後の課題になっていくと思います。